

天文民俗調査報告－2025 年－

北 尾 浩 一 *

概 要

2024 年に続いて、沖縄本島の星名伝承の調査に取り組んだ。2025 年 9 月に沖縄県国頭郡本部町瀬底島と浜元のシヌグについて調査を実施した。その概要をまとめるとともに瀬底島、浜元のシヌグの比較を行なう。さらには津嘉山の大綱曳との比較を行なう。

1. はじめに

1978 年、新潟県佐渡郡相川町姫津(現 佐渡市)より星名伝承の調査をはじめてから 48 年目になった。調査を実施した地域は、「沖縄県」である。

2. 調査の概要

2-1. 調査方法

漁業、農業等に従事した経験を持つ高齢者、経験がなくても年上から伝え聞いていた高齢者を対象にインタビュー調査を行なった。

2-2. 調査地

2025 年は、次の 3 箇所で調査を実施した。
・9 月…沖縄県国頭郡本部町瀬底島、浜元、健堅

3. 瀬底島のシヌグの概要

3-1. シヌグとは

2025 年 9 月 13 日、瀬底島のシヌグの調査を実施した。シヌグでは、星が歌われている。

シヌグについて『本部町史通史編下』には、「シニグ(シヌグまたは臼太鼓)は、稲の収穫後にその豊作を祝い、これを神に感謝するとともに、来年の豊作、豊穰を予祝(祈願)する祭りである」とある(本部町史編集委員会 1994)。

シヌグは、沖縄本島、与論島等で行なわれているが、そのなかで本部半島地区に星を歌った事例がある。本部半島地区以外に星が歌われたところがないか探しているが、現時点では見つからない。

3-2. 星が歌われている箇所

瀬底島のウシレーク歌は、「1 しち節」「2 天の群星」「3 七尺節」で構成されており、「2 天の群星」の冒頭の部分で「群星」と「黄金三つ星」が歌われる。練習のために作成された冊子(以下、練習冊子と記す)と仲田善明氏著『本部のシヌグ』に掲載されている歌詞、実際に歌われた歌詞とを比較する(表 1)。(仲田 2003)

『本部のシヌグ』	練習冊子	実際に歌われた歌詞
天のぼれ星や(ティンヌブプリブシヤ) 皆が上ど照ゆる(シナガウイドゥティユル)	天(ていん)ぬ群星(ぶーりーぶ…し)…やーよー皆(みーなー)が上(ういー)るー照(てい…)ゆる…よー ヘイヨー ハイスーリーヘー	ていんぬぶりーぶーしーやーよー みーなーがういーる ていゆるーよ ヘイヨー ハイスーリーヘー
黄金三つ星や(クガニミツィブシヤ) 我上ど照ゆる(ワウイドゥティユル)	* 黄金(くがに)三星(みーちーぶ…し…)…やーよー よー我(わ…)上(うい)るー照(てい…)ゆるー スーラーイ	* くがにみーちーぶーしーやーよー よーわーういーるーていーゆる スーラーイ

表 1 星が歌われた箇所の比較

表 1 によると、星名の表記が、ぼれ星(『本部のシヌグ』)と群星(練習冊子)と異なる。読み方は次のように歌うときに伸ばすことを表記されている(練習冊子)か表

* 星の伝承研究室
starlore_kitao@yahoo.co.jp

記されていない(本部のシヌグ)の相違があった。

- ・『本部のシヌグ』…「ぼれ星(ブリブシ)」
- ・練習冊子…「ぶーりーぶ…し」
- ・実際に歌われた…「ぶーりーぶーしー」

表1の黄金三つ星には、「ミツィ」と「ミーチ」の表記の違い、歌うときに伸ばすことの表記がされている練習冊子と表記されていない『本部のシヌグ』の違いがある。

『本部のシヌグ』…「クガニミツィブシ」

練習冊子…「くがにみーちーぶーし…」

実際に歌われた歌詞…「くがにみーちーぶーしー」

3-3. ウシレークが行なわれるのは旧暦 7 月 22 日

旧暦 7 月 18 日のウカタビ(御崇べ)、旧暦 7 月 20 日のウフユミ(大弓、大折目)、旧暦 7 月 21 日のカラタニゲー(健康御願)、旧暦 7 月 22 日のハンブトゥーキと続き、22 日の最後にウシレークで星が歌われる。実際には、簡略化され、旧暦 7 月 21 日のカラタニゲーで午後 2 時頃～の祝女火の神での健康御願を調査しようと思ったが、実施されなかった。

3-4. 星が歌われた箇所の解釈(『本部のシヌグ』による)

解釈は、『本部のシヌグ』のみ掲載されているが、星名の解釈は掲載されていない(表2)、(仲田 2003)。

『本部のシヌグ』掲載の歌詞	『本部のシヌグ』掲載の解釈
天のぼれ星や(ティンヌブリブシヤ) 皆が上ど照ゆる(シナガウイドゥティユル)	天の群星は、一様に皆の上を照らしているが、
黄金三つ星や(クガニミツィブシヤ) 我上ど照ゆる(ワウイドゥティユル)	黄金三つ星は私の上のみを照らしている。

表2 星が歌われた箇所の解釈

『本部のシヌグ』では、「ぼれ星」に「群星」の字をあてている。そして、「天のぼれ星」の読み方として「ティンヌブリブシヤ」と記している(仲田 2003)。かつてはブリブシでなく「ぼれ星」と歌っていたのであろうか。琉歌全集には「ぼれ星」(ブリブシ)、おもろさうしには「群れ星」(ぼれぼし)とある(外間他 1972)。元は「ぼれ星」であり、時代とともにブリブシに変化した可能性を考える。

ところで、ブリブシについて、内間清彦区長に確認すると、「たくさんある星、天の川のことじゃないかな」という答えが返ってきた。黄金三つ星については、不明であった。

3-5. 津嘉山の大綱曳きで歌われた歌との共通点

2024 年 7 月に 21 年ぶりに沖縄県南風原町の津嘉山大綱曳き(ウーンナ)が実施された。大綱曳きでは、「一番旗を貫口に立てるとき」「綱を曳き終わったあと」の二つの場面で星が歌われている(北尾 2025)。本項では、津嘉山大綱曳きで「綱を曳き終わってから歌われる歌」と比較する。

瀬底島のシヌグ(練習冊子)	津嘉山大綱曳き
天(ていん)ぬ群星(ぶーりーぶ…し)…やーよー皆(みーなー)が上(ういー)るー照(てい…)ゆる…よー へいよー ハイスーリー へー	天の群星や(ティンヌムリブシヤ) 皆が上ど照ゆる(シナガウィルティユル)
* 黄金(くがに)三星(みーちーぶーし…)…やーよー よー我(わ…)上(うい)るー照(てい…)ゆるー スーラーイ	黄金三ツ星や(クガニミチブシヤ) 吾上ど照ゆる(ワウィルティユル)

表3 瀬底島のシヌグと津嘉山大綱曳きの比較

瀬底島のシヌグと津嘉山大綱曳きの相違点は次の点のみで、他は同じである。

- ・瀬底島のシヌグ…ブリブシ(ぶーりーぶ…し)
- ・津嘉山大綱曳き…ムリブシ

南西諸島にムリブシとブリブシの呼び名は両方存在しているので、その点は問題ない。むしろ、注目すべきは、どちらもプレアデス星団を意味していないという点である。

3-6. 「瀬底島のシヌグのウシレーク」のなかで星を歌った箇所の星名を含めた解釈

「4-2. 津嘉山大綱曳きで歌われた星」(北尾 2025)の項と重複するが大事なことなので再確認しておく。

◆野尻抱影氏著『日本星名辞典』の記述

『日本星名辞典』に、「天ヌ群(ブ)り星(ブシ)や数(ユ)めば数(ユ)まれ(リ)ねい 親の(ウヤヌ)わし言(グドウ)や数(ゆ)みも(シ)ならぬ(シ)」の大意として、次のように記されている。

「天のブリブシ(すばる)は、数えれば数えられるが、親の教えは数えることはできない」(野尻 1973)。

野尻抱影氏の判断を疑わずに、ブリブシ、ムリブシ等の群れ星のグループはプレアデス星団(すばる)と考え、拙著『日本の星名事典』においても群れ星のグループ＝プレアデス星団と記した。

◆プレアデス星団ではなく「空全体の星」と伝承された

事例

2019 年から再び沖縄本島を歩き、次のようにプレアデス星団ではなく「空全体の星」を意味する事例を記録した。

- ・那覇市首里鳥堀町…ムリブシ、(空)全体にあれこうして。
- ・読谷村都屋…星がたくさんある。全体の星。

また、『伊江島方言辞典』には、ブリブシについて、「群れ星。満天の星群」(生塩 1999)と記されていた。明らかにプレアデス星団ではなく、満天の星を意味する。

◆琉歌全集の「天の一杯にむらがっている星」という記述

『標音評釈 琉歌全集』の亀甲節(かみぬくぶし)八三五番の項に、「天のぼれ星や皆が上ど照ゆる黄金(こがね)三つ星や我上(わうへ)ど照ゆる」が掲載されている。『本部のシヌグ』に「天のぼれ星」と記されているのは、琉歌全集の影響である可能性がある。そして、「ぼれ星」の語意について、琉歌全集には、「天の一杯にむらがっている星」、評釈に「天の群星は、一様に皆の上を照らしているが、黄金三つ星は私の上のみを照らしている」(島袋他 1968)と記されている。もし「ぼれ星」(群星)が、プレアデス星団であれば皆の上を照らすことができず、本事例では明らかに群れ星は空全体の星である。そして、黄金三つ星(オリオン座三つ星)は、「私の上のみを照らしている」ほど小さいのである。

したがって、「瀬底島のシヌグのウシレーク」のなかで星を歌った箇所解釈は、表4のようになる。

瀬底島のシヌグ(練習冊子)	解釈
天(ていん)ぬ群星(ぶーりーぶ…し)…やーよー皆(みーな)が上(うい)るー照(てい…)ゆる…よー へいよー ハイスーラーヘー	天のムリブシ(空いっぱい)に群がっている星)は、皆の上を照らしている。
* 黄金(くがに) 三星(みーちーぶ…し)…やーよー よー我(わ…)上(うい)るー照(てい…)ゆるー スーラーイ	黄金三つ星(オリオン座三つ星)は、私の上のみを照らしている。

表4 瀬底島のシヌグの星名の意味を含めた解釈

3-7. 前日の練習

毎週、夜間に練習を行なった。前日の練習では、星を歌った箇所も完璧に歌うことができた(写真右上)。瀬底島では、他地域のように録音を使わず



に自分たちで歌った。

3-8. 健康祈願と豊作祈願

午後 5 時頃、ウチマン毛(ウチマンモー、祭祀広場)で、ウフシヌヘーが各家庭での悪風祓い



そして健康祈願を祈る。続いて、ウフシヌヘーは、お神酒(オミキ)の前で御願(ウガン)をしたあと、デーグ棒で神酒を 3 回掻き混ぜてデーグ棒が立ったら来年は豊作になる(写真上)。悪風祓いの三本の矢を放ちた後、ウスレークがはじまる。

3-9. ウシレークがはじまる

雨で予定より遅くなり、午後 6 時よりウシレークがはじまる。

「ていんぬぶりーぶーしーやーよー みーなーがういーる ていゆるーよー へいよー ハイスーラーヘー」(天のムリブシ[空いっぱいに群がっている星]は、皆の上を照らしている)、「くがにみーちーぶーしーやーよー よーわーういーるーていーゆる」(黄金三つ星[オリオン座三つ星]は、私の上のみを照らしている)と歌われた。(写真下)



4. 浜元のシヌグの概要

2025 年 9 月 12 日(金)に沖縄県国頭郡本部町浜元のシヌグについて調査を実施した。浜元のウシレークは、「1 アサギ庭節」「2 インチャ苧(ウー)節」「3 天の群星」「4 具志川(グシチャ)ふた川節」「5 本部長節」で構成されており、「3 天の群星」の冒頭の部分で「群星」と「月」が歌われる。まず最初に島袋家からウシレークが始まる。

- ・ていんぬぶりぶしやよ ゆみばゆまりゆい サーうやぬゆしぐとうぬよ ゆみぬなゆみ ハイスーライ
- ・あのふしとうちつとヨ みくなびていみりば サーあぬふしや うしきヨー ちつやちゆらさ ハイスーライ

・あきよていんがーらやヨー しまゆくになとれ サーナまりくん里やヨー なくんさ ハイ(写真下)

続いて、小浜家にて、最後に、夜、暗くなってからアサギ庭にてウスレークを行なった。



5. 浜元、瀬底島のシスグの比較

浜元、瀬底島では、踊り方、歌う歌、歌われる天体が異なる。

	浜元	瀬底島
ウシレークの回数	3 回 1 島袋家 2 小浜家の本家 3 アサギ庭(夜、暗くなってから)	1 回 ウチマンモー、祭祀広場
踊り方	輪ひとつ	ウスデークを叩く 小さい輪がある
回転の方向(星を歌った部分)	反時計廻り	ほとんど静止
回転の方向(星を歌う前)	ほとんど静止	反時計廻り
回転の方向(星を歌った後)	反時計廻り	ほとんど静止

表5 浜元と瀬底島の踊り方の比較

表5のように、ウシレークの回数は浜元の3回に対し、瀬底島は1回と大きく異なった。(表5) また、浜元は録音を流していたが、自ら歌う人も多かった。瀬底島は録音でなく全員が歌っていた。

	浜元	瀬底島
空全体の星	ブリブシ	ブーリーブシ
オリオン座三つ星	-----	クガニミーチブシ
天の川	ティンガーラ	-----
月	チツ	-----

表6 歌われた天体の比較

歌われた天体は、「空全体の星」は共通であった。(表6) しかし、歌の内容を異なった。(表7) オリオン座三つ星は浜元では歌われず、瀬底島で歌われた。

天の川、月は、瀬底島では歌われず、浜元で歌われた。

浜元	瀬底島
ていんぬぶりぶしやよ ゆみばゆまりゆい サ ーうやぬゆしぐとうぬ よ ゆみぬなゆみ ハイ スーライ	天(ていん)ぬ群星(ぶーリー ぶ・・・し)・・・やーよー 皆(みーなー)が上(ういー)る一 照(てい・・・)ゆる・・・よー へいよー ハイスーリーへー
あのふしとうちつとヨ みくなびていみりば サーあぬふしや うし きヨー ちつやちゅ らさ ハイスーライ	* 黄金(くがに) 三星(みーち ーぶ・・・し・・・)・・・やーよー よー 我(わ・・・)上(うい)る一照(てい ・・・)ゆるー スーラーイ
あきよていんがーら やヨー しまゆくにな とれ サーナまりくん 里やヨー なくんさだ み ハイ スーライ	

表7 星が歌われた箇所の比較

6. おわりに

古代から今日までの連続した時間のなかで、星について「語ること」「歌うこと」「踊ること」が繰り返行われ、2026 年においても簡略化されたものの伝承されている。星を見て表現するのは、言語だけではない。言語よりも前に「歌うこと」「踊ること」が行われていた可能性を考える。調査にあたっては、瀬底の内間清彦区長、浜元の具志堅京子区長、友利健氏、広橋勝氏にお世話になった。紙面を借りてお礼を申し上げます。

参考文献

島袋盛敏、翁長俊郎：1968,標音評釈 琉歌全集,武蔵野書院,p.178.
外間守善、西郷信綱校注：1972,おもろさうし,岩波書店, p.194.
野尻抱影：1973,日本星名辞典,東京堂出版,p.179.
本部町史編集委員会：1994,本部町史通史編下,本部町,p.239.
生塩睦子：1999,沖縄伊江島方言辞典,伊江村教育委員会, p.358.
仲田善明：2003,本部のシスグ,沖縄学研究所,pp.35-50. pp.185-198.
北尾浩一：2025,天文民俗調査報告ー2024 年ー,大阪市立科学館研究報告第 35 号, pp.11-18. pp.200-202.